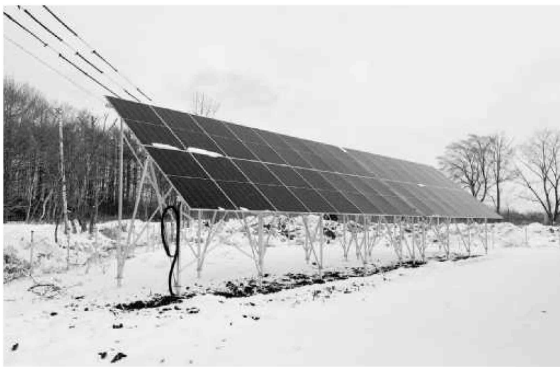


SMFL、北海道で太陽光

H E エナの100カ所取得

H E エナジーが施工した北海道の太陽光発電所



1万kWをPPAで売電

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)子会社のSMFLみらいパートナーズ(東京都千代田区)は、2026年6月までにH E エナジー(札幌市中央区)が北海道内で開発する太陽光発電所100カ所を取得する。太陽光発電所は設備容量が合計約1万kWで、発電した電気をオフサイト型のコーポレートPPA(電力販売契約)で需要家に直接販売する。需要家が決まる前に太陽光発電所を開発し、電気を短期間で供給する体制をつくる。

このほどH E エナジーが開発する太陽光発電所を取得する基本合意契約を結んだ。

太陽光発電所はH E エナジーが開発、施工し、SMFLみらいパートナーズが100%出資する合同会社が運営する。企業へのコーポレートPPAの提案はSMFLみらいパートナーズが担う。SMFLみらいパートナーズが北海道で太陽光発電所を取得するのは初めて。

北海道で太陽光発電

所を展開するノウハウを持つH E エナジーと組むことで、先行開発の取り組みを加速する。引き続き、企業の再生可能エネルギー需要が高まるとみて、太陽光発電所の先行開発に力を入れる。

SMFLみらいパートナーズは太陽光発電のコーポレートPPAの持ち分出力が国内トップ水準。コーポレートPPAに注力し、26年3月末までに国内太陽光発電のPPAの持ち分出力を25年8月末比1・3倍の60万kWに高める計画だ。

今後も太陽光発電は市場の拡大が見込まれる。日本政府は第7次エネルギー基本計画で、22年度に9%程度だった発電電力量に占める太陽光発電の割合を40年度に23~29%程度に高める方針を掲げている。